

平成19年7月11日  
近畿地方整備局

## 「大阪湾高潮対策協議会」(第1回)

### 議事概要

#### 1. 協議会の概要

日時 : 平成19年7月11日(水) 15:00~17:10  
場所 : シティプラザ大阪2階・燦  
出席者 : 別表のとおり

#### 2. 基調講演

「高潮防災対策について」 京都大学防災研究所  
巨大災害研究センター長 教授 河田 恵昭

#### 3. 議事概要

大阪湾の高潮に対する現状と課題、検討の進め方、大阪湾高潮氾濫浸水予測の考え方について事務局より説明を行った後、各委員にご議論いただいた。委員からの主な意見は、以下のとおり。

(主な意見)

##### 【堤外側の現況について】

- 堤外側にあるコンテナヤードやコンテナヤードの高潮時の状況と防災施設への漂流・衝突の可能性、高潮堤防外の埋立地の従業者の避難など、今後の対策も含めて本協議会にて検討をお願いしたい。

##### 【複合災害について】

- 高潮と洪水の同時発生や大規模地震直後の高潮といった複合災害の懸念についても、この協議会において議論することが必要ではないか。
- 高潮が発生したとき、たとえば淀川の流量がどれくらい以上流れていると、高潮区間の堤防を超えるかという評価ができる。どのような状態になったら氾濫するのかという条件をあらかじめ知っておくことで、その対策として何を検討しなければならないかの課題も浮かびあがる。

### 【高潮の発生確率について】

- 現計画での高潮の確率規模が約 1/100 相当とあるが、算定の根拠について示してほしい。
- 確率統計解析を行う場合、対象を最高潮位とするのか最大偏差とするのかで、確率が変わってくる。この協議会では、何を確率変量として検討するのかがはっきりしておく必要がある

### 【想定する台風の条件について】

- 現計画を超える規模の台風を室戸台風と想定しているが、台風の規模は、中心気圧の低さ以外に、大きさもある。(大きさとしては、室戸台風よりも伊勢湾台風の方が大きい。) 今後の地球温暖化の影響等による台風の巨大化を考慮するのであれば、上陸時の既往最大規模という設定よりもう少し大きい台風の規模を設定する必要があるのではないか。例えば、海上で観測された台風を上陸させてみるなどの考え方がある。

### 【地球温暖化による海面上昇の取扱いについて】

- 海面上昇量を考慮しないとなっているが、南海地震が発生すると大阪全域が地盤沈下を起こす。地震発後の高潮の発生や海面上昇等の複数の要因を考えると、それらを考慮した結果として、海面上昇量を見込んでおいても良いのではないか。最悪どうなるのかということを知っておくことが重要である。